



- 本園では、月に1回、「おはなしの日」を設けています。その日は担任以外の保育者が読み聞かせをする特別な日。「どんなおはなしが聞けるかな?」と、
- 子ども達の瞳はキラキラしています。おはなしが始まると、笑い声や歌声が聞こえてくるクラスがあつたり、物音ひとつさせずに絵本に集中しているクラスがあつたりと様々です。しかし、共通しているのは、「おはなし」を楽しんでいるということ。「おはなし」を聞きながら子ども達の想像力や表現力、そして心が育まれていきます。



6月12日(月) ときわ保育園 2歳児 たんぽぽ組

「しー あれはなんのおと?」 ちいさなかぐのとも 福音館書店
文: 小野寺悦子 絵: 城芽ハマト

「ぶるんぶるんぶるん」「ぶぶぶぶぶ <ぶぶぶ>」「しゅ しゅしゅ しゅ」いろいろな音の表現に、子ども達も耳を澄ませ、想像力を膨らませながら聞き入っていました。最初に聞いた「ぶち ひちん」の音を探して行くおはなしなのですが、答えは「カタバミ」。指で触ってはじけた種の音です。「お外に行ったら見つけてみよう!」と、子ども達は次回のお散歩に期待をもちました。本物のカタバミの音を聞いた時、「えほんのせかい」が「こどものせかい」に変わります。

